

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

令和2年度病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

令和2年度病害虫発生予察注意報第4号

- 1 作物名 カンショ
- 2 害虫名 チョウ目害虫（イモキバガ、ナカジロシタバ、エビガラスズメ）
- 3 発生地域 沖縄本島
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) イモキバガ
 - ① うるま市宮城島・伊計島における7月上旬の調査の結果、イモキバガの幼虫数の平年値0.03頭/葉に対して観測値は0.1頭/葉でやや多だった。
 - ② 被害葉率は平年値8.1%に対して27.3%が多だった。
 - ③ 糸満市、八重瀬町、読谷村においても同様の被害が見られた。
 - (2) ナカジロシタバ
 - ① うるま市宮城島・伊計島における7月上旬の調査結果、ナカジロシタバの幼虫数の平年値0.002頭/葉に対して観測値は0.04頭/葉が多だった。
 - ② 被害葉率は平年値6.2%に対して観測値は23.3%でやや多だった。
 - ③ 糸満市、八重瀬町、読谷村においても同様の被害が見られた。
 - (3) エビガラスズメ
 - ① うるま市宮城島・伊計島における7月上旬の調査結果、エビガラスズメの幼虫数の昨年度0頭/葉に対して観測値は0.02頭/葉であった。
 - ② 被害葉率は昨年度0%に対して観測値は18%であった。
 - ③ 糸満市、八重瀬町、読谷村においても同様の被害が見られた。
- 5 発生生態および被害
 - (1) イモキバガ
 - ① 年間発生6～7世代周年発生する。各態が年中見られる。
 - ② 7月発生のピークが見られ、9月頃まで発生が多い。被害は5～9月に多い。
 - ③ 乾燥した天候が続く年に多い。
 - ④ カンショ、ノアサガオに寄生する。
 - ⑤ 雌は葉の表面に1粒ずつ産卵する。幼虫は葉を折って糸でつづり、その中に潜んで、内側から外側の表皮を残して食べる。葉を食いつくすと、次の葉に移り加害を続ける。
 - ⑥ つづり合わせた葉の中で蛹化する。

(2) ナカジロシタバ

- ① 成虫は前翅長約 16mm。前翅は全体的褐色、後翅に大きな白斑がある。
- ② 初夏と秋口にしばしば大発生し、大きな被害を与えることがある。
- ③ 土中で蛹化する。

(3) エビガラスズメ

- ① 年 3 回以上発生する。
- ② 土中で越冬した蛹が羽化し、成虫は 4 月頃から認められる。
- ③ 幼虫の発生は 6～7 月に多い。
- ④ 卵は 1 粒ずつ葉表に産まれ、ふ化幼虫は夜間に食害する。

6 防除上注意すべき事項

○イモキバガ、ナカジロシタバ、エビガラスズメ

発生初期の防除が有効であるので、被害葉が目立ち始めたら、薬剤散布する。

(1) イモキバガ



図1 幼虫（左）と蛹（右）



図2 イモキバガによる被害

(2) ナカジロシタバ



図3 幼虫



図4 ナカジロシタバによる被害

(3) エビガラスズメ



図5 老齡幼虫（緑色型）



図6 老齡幼虫（褐色型）



図7 蛹



図8 成虫（雄）



図9 エビガラスズメの被害

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>